

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000187		
法人名	特定非営利活動法人楠の木会		
事業所名	グループホーム楠の木園		
所在地	佐賀県佐賀郡川副町大字福富40-4 (電 話) 0952(45)9003		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会 佐賀県評価・調査センター		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224-2		
訪問調査日	平成 19 年6月 4 日	評価確定日	平成 19 年 7 月 9 日

【情報提供票より】(平成 19 年 5 月 31 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	4 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 4.2 人

(2)建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての		1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 600 円		

(4)利用者の概要(5 月 13 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	62 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小柳記念病院・中島歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧民家の趣を活かし、ゆったりとした日常生活が送れるよう配慮された民家改修型のホームであった。基本理念に掲げられている「ゆっくり」「いっしょに」「たのしむ」がしっかりと意識され、地域の協力のもと、その具体化に努められていた。「利用者と家族が安心していただけるように。ホームを自分の本当の家だと思って暮らしていただけるように。」という管理者の思いは職員にも共有され、入居者の状況、状態、気持ちに応じたサービスの提供に努められていた。出来る限り残存能力を活かし生活を楽しむことができるようにと、ホーム内にとじこもらない生活をめざした家庭的なホームであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は職員に伝え、全員で改善に向けて取り組まれていた。通常の入浴時間帯や町とのかかわりなどついて、積極的な改善が見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は管理者だけではなく、全職員に確認しながら記入し、項目の内容の理解に努められていた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、行政職員、民生委員、ボランティア、利用者の家族などの参加を得て定期的に開催されていた。事業所の活動報告をするだけではなく、災害時の地域の協力を得るための対策や、他の施設との繋がりを得るための情報など、会議で出た意見は積極的に活かす取り組みがなされていた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	毎月必ず、利用者の状態、暮らしぶり、金銭管理等について報告がなされ、家族の訪問時や必要に応じて、個々に報告がなされていた。また、面会に来られた時など、出来る限り声かけをし、意見や要望を言いやすいように努め、意見や要望があれば職員会議などで検討し、周知することでケアに反映されていた。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	日頃の挨拶を交わすだけではなく、地域のお祭りや掃除には職員、入居者ともに参加されていた。また、定期的に発行している園だよりを回覧板でまわすことで、ホームの行事予定を案内し、地域からの参加も得られていた。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で安心して暮らしができるような支援を、具体的でわかりやすい理念としてかけられていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「ゆっくり」「いっしょに」「たのしむ」を実践できるように、管理者、職員ともに日々確認し、利用者のペースで、残存能力を活かし、生活を楽しむことができるようなケアに努められていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや掃除に職員、入居者が参加したり、定期的に発行している園だよりを回覧板でまわすなど、地域住民との交流に努められていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者だけではなく、全職員に確認しながら記入し、項目の内容の理解に努められていた。また、外部評価の結果は会議で職員に伝えるだけでなく、家族にもコピーを配布し、改善に取り組まれていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政職員、民生委員、ボランティア、利用者の家族などの参加を得て定期的に開催され、意見の交換がなされていた。	○	今後、サービスの質の向上に繋がるような、より発展的な意見が得られるよう、地域の様々な分野の方に参加していただける取り組みが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町が開催する定期的なネットワーク会議に参加し、情報交換など積極的に行なわれていた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	自己評価は管理者だけではなく、全職員に確認しながら記入し、項目の内容の理解に努められていた。また、外部評価の結果は会議で職員に伝えるだけでなく、家族にもコピーを配布し、改善に取り組まれていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は、行政職員、民生委員、ボランティア、利用者の家族などの参加を得て定期的に開催され、意見の交換がなされていた。	○	今後、サービスの質の向上に繋がるような、より発展的な意見が得られるよう、地域の様々な分野の方に参加していただける取り組みが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	町が開催する定期的なネットワーク会議に参加し、情報交換など積極的に行なわれていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議の際にはテーマを決めて勉強会が行われていた。外部研修へも職員の立場や経験に応じて参加を促し、会議で報告し全職員への周知がなされていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会や、他の集まりを通じて、同業者と情報の交換をしたり、今後さらに交流を深めるような、質の向上に向けた取り組みが検討されていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居(個人に応じて日数、回数を設定)を通して本人が安心して入居できるように工夫されていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者本人と同じゆっくりしたペースで、一緒に日々を過ごし、ともに楽しむこと、喜ぶことができるようなケアの実践に努められていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、一人ひとりの思いや、希望等は、本人との会話を通して、また家族等からの話を聞くなどして把握に努められていた。	○	把握された内容は、申し送りなどで伝達はなされていたが、記録としては残されていなかった。記録として残すことは、入居者を理解するうえで、職員一人ひとりの対応のずれを少なくする事になる。今後は是非取り入れて、さらにより良いサービスの提供に繋げていかれる事を期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の暮らしぶりや状態を観察し、毎月の会議で介護計画の内容の確認を行ない、見直しを検討をされていた。	○	定期的に検討をされ、家族への確認もされていた。今後、本人や家族、関係者のちょっとした意見等も記録を残し、反映されていく仕組み作りを検討されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的に見直しが行なわれていた。入居者の状態変化があった場合にも、その都度状態の変化に応じて、職員、家族等と話し合いをし、介護計画の見直しが行なわれていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族が安心して暮らしていけるように、希望の理美容院の利用支援や、医療機関への通院介助、早期退院に向けた支援など、柔軟な支援がなされていた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を把握し、受診や通院は本人や家族の希望に応じた支援がなされていた。受診結果などに関する情報は職員、家族で共有され、常時相談できるように医療機関との連携も図られていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応について、本人や家族等と話し合いが行なわれていた。また終末期における対応についても指針を定め、意思の確認が文書にて行なわれていた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心に配慮した言葉かけが実践され、入居者の誇りやプライバシーを損ねないような対応が行なわれていた。また、記録等の個人情報の取り扱いには十分注意がなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、状態や体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重した柔軟な対応が行なわれていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力に応じて、準備や、野菜切りなどの調理、後片付けなどを一緒にされていた。またメニューには入居者の希望を反映するなど、食事を楽しめるような取り組みがなされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む方に対しても、言葉かけや対応を工夫するなど、一人ひとりの気持ちや状態にあわせた入浴支援がなされていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや、庭の草取り、植物の世話、三味線や編み物など、一人ひとりの生活歴や趣味などを活かし、役割や楽しみごと、気晴らしの支援がなされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出かけたり、希望によって買い物やイベントへの参加など外出支援は積極的に行なわれていた。また、天気がよくない日でも敷地内のガレージでお茶を楽しむ時間を作るなど、ホームに閉じこもらない支援がなされていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さを管理者、職員すべてが認識し、日中は鍵をかけないケアに取り組まれていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1度、様々な場面を想定して避難訓練を行い、災害や非常事態に備えられていた。また、地域の方の協力が得られるように運営推進会議でも話し合いをされるなど、積極的な取り組みが行なわれていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通した食事や水分の摂取量は記録し、職員が常に把握できるようになされていた。水分はいつでも取れるように準備され、献立の栄養バランスにも配慮がなされていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所や居間、廊下などには家庭的な馴染みのテーブルやソファを設置し、入居者と共に作成されたカレンダーを張るなど居心地良く過ごせるような工夫がなされていた。また、ドアの開け閉めにも気を配り、不快な音や光への配慮もなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物品や寝具を持ち込まれたり、居室内のベットやタンスなどの配置(レイアウト)を本人と一緒に考えるなど居心地良く過ごせるように配慮されていた。		